

第18回木曾川上流自然再生検討会

【資料】

貴重種情報記載につき非公開

貴重種の生息生育位置が確認できる情報(非公開の赤枠)については、非公開とさせていただきます。
(該当ページ番号:P1,4~22,24~39, 41~46,49~54)

令和8年1月26日

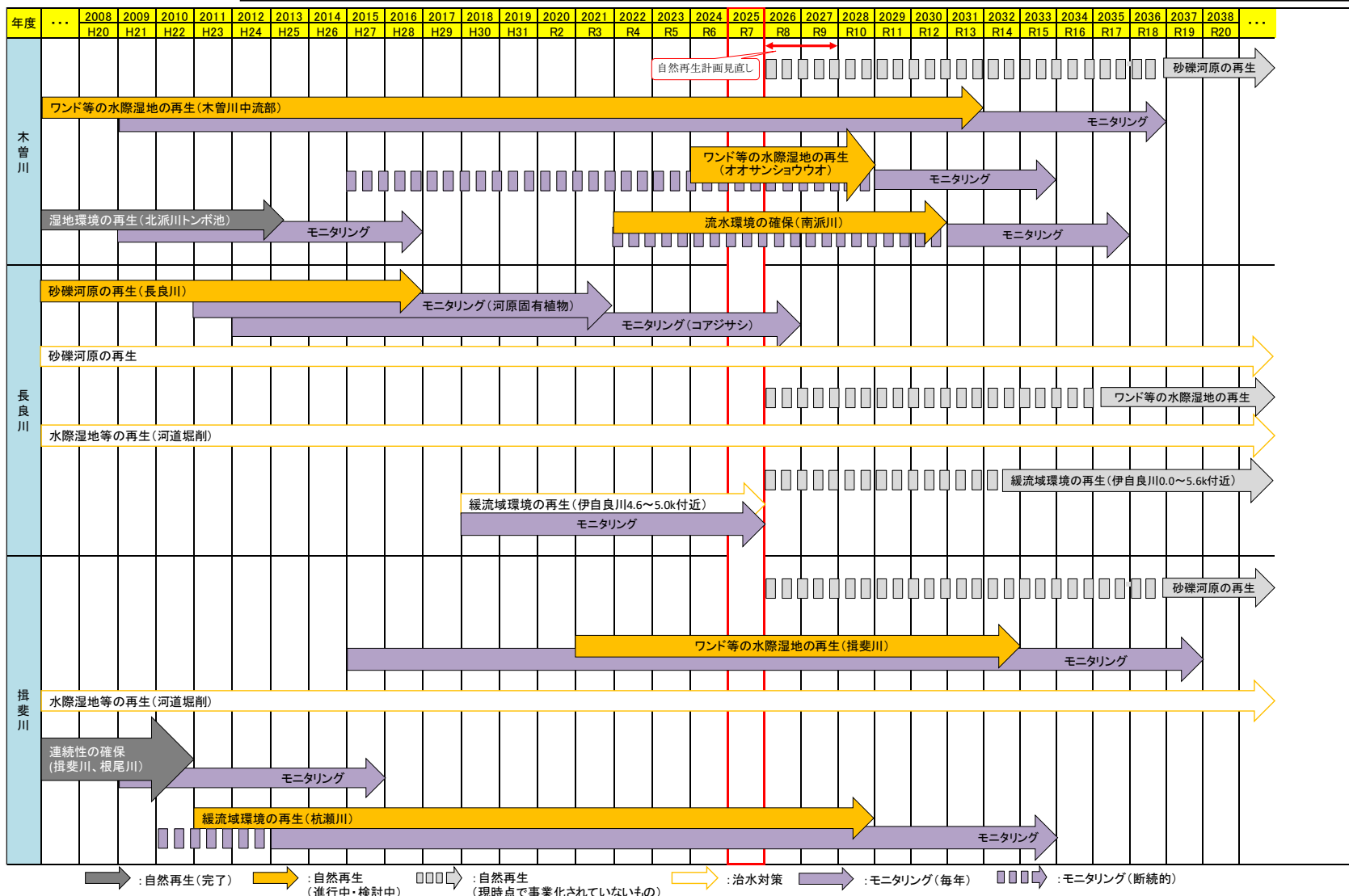
中部地方整備局 木曾川上流河川事務所

貴重種情報記載につき取扱注意

1. 木曾川上流における自然再生計画について

②自然再生の進捗と今後の予定

- 自然再生事業は、木曾三川の良い自然環境の保全を図りつつ、失われた環境を再生するため、平成23年度に策定した自然再生計画に基づき進めている。
- その他、河川整備においては多自然川づくりに取り組むものとし、ワンド等の水際湿地や砂礫河原、緩流域環境等の再生に努める。
- 令和7年度木曾川水系流域委員会で、現在実施中の自然再生事業を2～5年延伸している。



2. 報 告 事 項

- (1) ワンド等の水際湿地の再生(木曾川)
- (2) ワンド等の水際湿地の再生(揖斐川)
- (3) 緩流域環境の再生(杭瀬川)
- (4) 緩流域環境の再生(伊自良川)
- (5) コアジサシの繁殖状況(木曾三川)
- (6) ワンド等の水際湿地の再生(オオサンショウウオ)
- (7) 樹林化の防止及び流水環境の確保(南派川)

(1) ワンド等の水際湿地の再生(木曾川)(1/15)

取扱
注意

自然再生の必要性

<背景>

- ・木曾川中流部のワンド群には、国の天然記念物であるイタセンパラを含むタナゴ類が多く生息している。
- ・タナゴ類の多くは攪乱のあるワンド・たまりを生息場所とし、イシガイ等の二枚貝に産卵する。

<課題>

- ・水域と陸域の高さの差が拡大し、ワンドが本川と切り離され孤立化するとともに、底泥の堆積が進行しタナゴ類や二枚貝の生息場となる湿地環境の劣化が進行している。

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

- ・ワンド間・ワンド群間のネットワークを再生することにより、中流域全体でイタセンパラの個体数が維持できる環境の保全を図る。
- ・取り組みは、可能な限り地域との連携によって推進し、地元への対策効果の還元（環境学習の機会提供、地域の活性化等）、および維持管理への移行（密漁監視、植生管理等）を行う。

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

今後の方針

■整備完了箇所モニタリングを継続

- 各地区のワンド保全対策は概ね完了。モニタリングを継続し、状況を監視
さらに、これまでの施工(インパクト)と効果(レスポンス)について学識者とも連携し、評価を進める。
- 必要に応じ、底泥浚渫、水路造成、盤下げ等を課題箇所を実施し、ワンド環境を保全。

■事業後の新たな課題に対する対応

- 貴重種情報記載につき取扱注意 では、近年イタセンパラが未確認。
- 低水路の河床低下や砂州への土砂堆積が生じやすく、従来の個別改善(底泥浚渫、水路造成等)では効果が持続しないため、新たな保全対策の必要性が示唆
→ 木曾川の河道管理・維持とワンド環境の保全・創出のため、モニタリングにより得られた知見や学識者による研究成果、新たな試行(面的掘削)等の取組みを踏まえ、今後の保全対策を引き続き実施



<令和8年度以降>

- 貴重種情報記載につき取扱注意 において、樹木伐開工事と連携した面的掘削によりワンドの保全・創出を計画

貴重種情報記載につき取扱注意

(1) ワンド等の水際湿地の再生(木曾川)(15/15)

取扱注意

普及啓発の取り組み

イタセンパラ保護に関する主な地域連携行事(令和7年度)

2025年5月18日	第17回 木曾川合同パトロール ～絶滅危惧種イタセンパラを守ろう!～【協議会の取り組み】	議会関係者および日頃よりイタセンパラ保護に関わっている地域の方々に加えて、一般参加者の方々によるパトロールを開催。また、別途開催のウォーキング大会の参加者にワンド等の説明を行った。
2025年10月24日	「イタセンパラ塾」【地域の取り組み(羽島市)】 ※地元情報誌、ケーブルテレビの取材あり	羽島市の小学生を対象に、室内学習、魚類調査体験、工事説明、水質調査体験等を通じた環境学習を開催。
2025年11月12日	一宮市立起小学校 環境学習会 ～木曾川ワンド学習～【国交省の取り組み】	起小学校4年生児童を対象に木曾川の歴史、魚類調査、機械の見学等の体験を通じた環境学習会を開催。
2025年11月13日	羽島市立中島小学校 環境学習会 【国交省の取り組み】	中島小学校4年生児童を対象に木曾川の自然やワンド環境改善の説明、魚類や水質調査等の体験を通じた環境学習会を開催。

木曾川合同パトロールの実施

起小学校における環境学習会の実施

- 日時: 2025年5月18日(日) 10:00～12:00
- 場所: **貴重種情報記載につき取扱注意** 木曾川中流部
- 参加: 47名 協議会関係者(岐阜協立大学、愛知県、一宮市、一宮市尾西歴史民俗資料館、岐阜県、岐阜羽島警察、国交省、環境省、世界淡水魚園水族館、建設環境研究所)および地域関係者(地元の高年生等)、地元企業、一般市民
※その他: 一宮市尾西地区「三代交流木曾川ウォーキング大会」参加者 158名

- 日時: 2025年11月12日(水) 9:40～11:15
- 場所: **貴重種情報記載につき取扱注意**
- 参加: 一宮市立起小学校4年生 83名
(協力: 一宮市博物館、一宮市尾西歴史民俗資料館、株式会社川瀬組)



イタセンパラ塾の開催

中島小学校における環境学習会の実施

- 日時: 2025年10月24日(金) 10:30～12:50
- 場所: 羽島市立桑原学園、**貴重種情報記載につき取扱注意**
- 参加: 羽島市立桑原学園4年生10名、5年生23名 ※羽島新報とCCNが取材
(主催: 羽島市民協働部生涯学習課 共催: 国土交通省 木曾川上流河川事務所)

- 日時: 2025年11月13日(木) 9:00～11:30
- 場所: 羽島市立中島小学校体育館、**貴重種情報記載につき取扱注意**
- 参加: 羽島市立中島小学校4年生 28名 (主催: 国土交通省 木曾川上流河川事務所)



自然再生の必要性

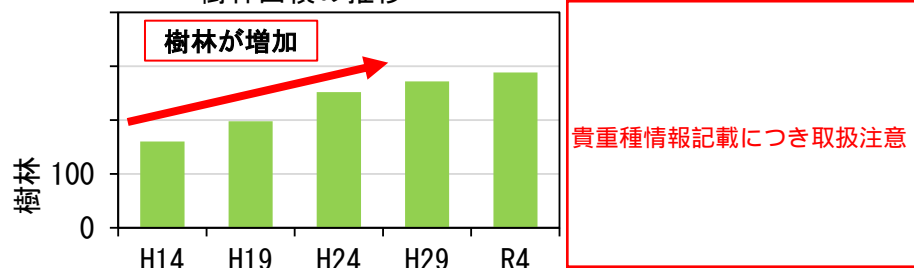
<背景>

- ・ワンド等の水際湿地の再生は、現時点でイタセンパラの生息が確認されている木曾川で先行して検討、実施してきた。
- ・**貴重種情報記載につき取扱注意** は、約150のワンドが存在している。
- ・揖斐川では、イタセンパラは近年未確認であるが、タナゴ類(ヤリタナゴ、カネヒラ、タイリクバラタナゴ)が確認され、二枚貝(タテボシガイ、ササノハガイ等)も比較的多い。

<課題>

- ・ワンド周辺の樹林化の進行や、一部ワンドでの底泥の堆積等の湿地環境の悪化が確認された。

樹林面積の推移



出典: 令和7年度 木曾川水系流域委員会資料

樹林化したワンド

貴重種情報記載につき取扱注意

<整備目標と対策の基本方針>

- ・タナゴ類をはじめとする多種多様な在来魚類や二枚貝の生息・繁殖環境を再生・保全する。
- ・揖斐川で実績のある水際部の盤下げ、樹木伐開、木曾川での知見を踏まえた底泥浚渫や水路造成を実施。
- ・洪水攪乱の違いを考慮した多様なワンド環境を創出。

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

(2) ワンド等の水際湿地の再生(揖斐川) (5/6)

ワンド整備の考え方

- 底泥堆積により環境が劣化したワンドについて、掘削によるワンドの保全・創出を図るとともに、流下能力を維持し、樹木の再繁茂を抑制させる。
- 掘削(盤下げ)により、水域の冠水頻度を高め、タナゴ類や二枚貝類の定着・生息しやすい場を形成させるとともに、時間経過に応じて多様なワンド環境を保全・創出(循環的な氾濫原再生)。

施工前

ワンドの閉塞化、底泥堆積
による環境悪化

土砂堆積や樹木再繁茂
による流下能力の低下

施工時

河道断面の確保と、ワンド等水際湿地の保全・創出のための河道掘削

ワンドの保全・創出のための掘削

時間経過

施工後
時間経過
(イメージ)

- 施工後の微地形の形成(水際の複雑さ、水深分布の変化)、底質変化によるタナゴ類や二枚貝類の生息場となる多様なワンド環境の形成
- 流下能力の維持、樹木再繁茂の抑制

河道断面の確保(治水)と
ワンド等水際湿地の
保全・創出のための
河道掘削
～循環的な氾濫原再生～

堆積・侵食によるワンド等の微地形

貴重種情報記載につき取扱注意

【モニタリング結果に基づく現時点の評価】

再生箇所	再生メニュー	再生の効果や課題	今後の対応
木曽川	ワンド等の水際湿地の再生 (樹木伐開、面的掘削)	<p>より上流区間において、低水路の局所的な河床低下や砂州(ワンド群)への土砂堆積等により、河道が二極化しており、ワンド群の冠水頻度が低下傾向。</p> <ul style="list-style-type: none"> 湛水特性によりワンド環境が比較的安定している 貴重種情報記載につき取扱注意 では、イタセンパラ、二枚貝の生息はみられるものの、その生息数は不安定。 貴重種情報記載につき取扱注意 は、事業開始時点(H21)では良好な生息サイト(リファレンス)であったが、近年はイタセンパラや二枚貝が大幅に減少しており、冠水頻度の低下が生息環境悪化の要因と想定。 近年、出水にともなう土砂供給で形成された砂州周辺や、本川と連続性の高いワンドにおいて、二枚貝の新規生息が確認されるなど、出水による土砂供給・底質更新が生息場の形成・更新として重要。 	<p>【整備完了地点のモニタリング】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地区のワンド保全対策は概ね完了。モニタリングを継続し、状況を監視。 <p>【追加のワンド保全対策(計画)】</p> <p>貴重種情報記載につき取扱注意 面的掘削を計画している。</p> <p>【新たな課題に対する対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 木曽川の河道管理・維持とワンド環境保全の両立に向けて、モニタリングで得られた知見や学識者の研究成果、新たな試行(面的掘削)等の取組みを踏まえ、今後の保全対策を引き続き検討する。
揖斐川	ワンド等の水際湿地の再生 (樹木伐開、面的掘削)	<ul style="list-style-type: none"> ワンド指標種(タナゴ類、ミナミメダカ等)の個体数は、樹木伐開後に増加する傾向があるが、その後減少傾向である。 タナゴ類の確認は継続しているが、在来のヤリタナゴ等の確認が増加せず、タイリクバラタナゴの増加が著しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ワンド再生に関わる施工(樹木伐開や掘削)を実施した地区について、タナゴ類を中心とした魚類やイシガイ科二枚貝類の種数や個体数、物理環境をモニタリングする。

(3) 緩流域環境の再生(杭瀬川)(1/5)

自然再生の必要性

<背景>

- 杭瀬川は、かつては蛇行を繰り返し、緩やかな流れを好むタナゴ類やメダカ等の小型魚類や、ササバモ等の水生植物が生息・生育する緩流域環境であった。

貴重種情報記載につき取扱注意

<課題>

- 河川整備による直線化の際、旧河道を湿地環境として残したが、土砂の堆積や樹林化により緩流域環境が劣化している。

貴重種情報記載につき取扱注意

<整備目標と対策の基本方針>

- 緩やかな流れを好むヤリタナゴ等の小型魚類や水生植物の生息・生育環境の改善を図るため、旧河道の掘削や樹木伐開を行う。

土砂堆積や樹林化が進行した旧河道の状況



ヤリタナゴ
(環境省RL：準絶滅危惧)

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

自然再生の必要性

<背景>

- ・伊自良川は、かつては蛇行、分流していた緩流河川であり、緩やかな流れを好むタナゴ類やメダカ等の小型魚類や、ササバモ等の水生植物が生息・生育する緩流域環境であった。

<課題>

- ・河道の直線化等により、河川勾配が急になり、流速が速くなるとともに、低水路の固定化、河岸の法勾配の急峻化等が進み、緩流域環境が減少している。

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

<整備目標と対策の基本方針>

- ・ヤリタナゴやメダカ等の小型魚類や、ササバモ等の水生植物が生息・生育する緩流域環境を再生する。



ヤリタナゴ



ミナミメダカ



ササバモ

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

支川の緩流域環境の再生 効果と課題

【モニタリング結果に基づく現時点の評価】

再生箇所	再生メニュー	再生の効果や課題	今後の対応
<div data-bbox="19 259 208 317" style="border: 1px solid red; padding: 2px;">貴重種情報記載につき取扱注意</div> <p>施工予定</p>	<p>緩流環境の創出 (樹木伐開、底泥除去)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木伐開後も、目標種であるミナミメダカやタナゴ類が多く生息しており、タナゴ類の産卵母貝となるイシガイ類も確認されていることから、良好な緩流環境が維持されていると考えられる。 ・水路及びワンドにおける流速も目標値を下回っており、緩流環境が維持されていると考えられる。 ・底質はワンド区間において、シルト・粘土分が優占していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施工前モニタリング調査については今年度で終了とし、次年度以降は底泥除去を段階的に行いつつ施工後モニタリング調査を行う方針とする。
<div data-bbox="19 731 278 833" style="border: 1px solid red; padding: 2px;">貴重種情報記載につき取扱注意</div>	<p>緩流環境の創出 (樹木伐開、掘削)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・再生箇所では目標流速が維持され、底質には砂などの細粒分が堆積し、目標種のイシガイ類の生息が継続的に確認されている。 ・目標種のアブラボテ、ミナミメダカ等の緩流性の魚類が継続的に確認されている。 ・オオカナダモの繁茂の拡大が確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標となる緩流環境が維持されていることから、今年度でモニタリング調査は終了とする。

繁殖状況調査の必要性

<背景>

- ・木曾三川中流域は、かつては砂礫河原が広がり、夏鳥として飛来するコアジサシの貴重な繁殖地となっていた。

コアジサシの概要



- ・夏鳥として本州以南で繁殖する小型のアジサシ類
- ・内陸域では、植被率の低い砂礫河原を営巣地として利用する繁殖生態を持つことから、河川環境への依存度が高い。
- ・近年は繁殖環境の消失等によって個体数が減少している。

<課題>

- ・濬筋の固定化や樹林化の進行及び河道掘削等によって砂礫河原が減少し、コアジサシ等の鳥類の繁殖場が失われている。

<対策の基本方針>

- ・コアジサシ等の鳥類の繁殖環境となる礫河原を保全するため、河道掘削時に可能な対策を検討することにより、木曾三川の礫河原を再生する。
- ・木曾三川におけるコアジサシの繁殖状況を把握し、対策事項に反映するためのモニタリングを行う。

貴重種情報記載につき取扱注意

(5) コアジサシの繁殖状況(2/3)

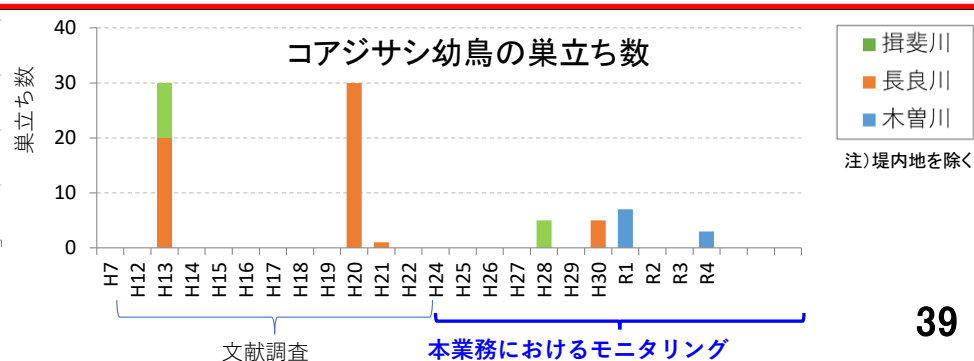
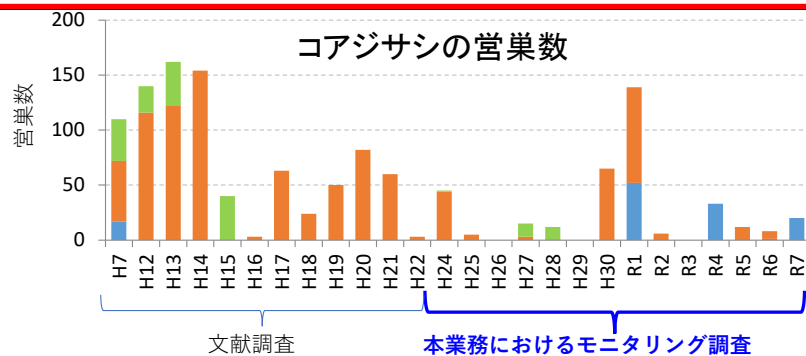
木曽三川上流部における令和7年度の繁殖状況

- 木曽川、長良川での繁殖状況調査の結果、木曽川の1箇所で営巣行動を確認。
- 営巣箇所が6月の出水時に冠水し、繁殖は成功しなかった。

取扱
注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意



砂礫河原再生 効果と課題

【モニタリング結果に基づく現時点の評価】

再生箇所	再生メニュー	再生の効果や課題	今後の対応
木曾三川	砂礫河原再生 (河道掘削)	<ul style="list-style-type: none">・コアジサシの繁殖環境に配慮して切り下げた長良川の中州では、令和7年度の営巣活動は確認されなかったが飛翔個体を周辺で確認した。営巣に適した広い砂礫河原は維持されており、今後も営巣地として利用される可能性が高いと考えられる。・木曾三川での過去の繁殖実績をみると、特定の河川の特定の箇所で営巣を継続しているわけではなく、営巣数の変動も大きい。	<ul style="list-style-type: none">・木曾三川を対象に、繁殖状況のモニタリングを継続する。

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

ワンド等の水際湿地の再生（オオサンショウウオ）現状と課題

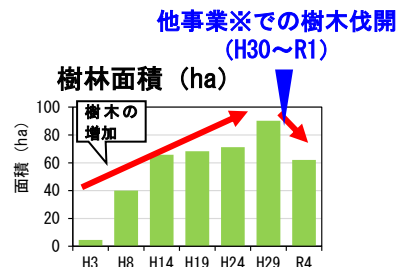
【モニタリング結果に基づく現時点の評価】

再生箇所	再生メニュー	現状と課題	今後の対応
<p>木曽川</p> <p>貴重種情報記載につき取扱注意</p>	<p>ワンド等の水際湿地の再生（木工沈床の設置等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 貴重種情報記載につき取扱注意 では、近年河床低下に伴う滯筋の固定化により、流れの速い瀬が形成され、オオサンショウウオの生息場所となる緩流域が減少している。 設置箇所及び施工方法の詳細検討のために、現地確認を行う必要がある。 オオサンショウウオの生息に適した緩流環境を創出することが課題である。 	<p>【整備目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 木工沈床の設置するなどして緩流域を拡大し、オオサンショウウオの生息場所を拡大していく。 <p>【今後の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 木工沈床の設置箇所及び施工方法の詳細検討する。検討にあわせて現地確認を実施する（R8年度） 木工沈床の設置する。（R9年度～） 整備段階に応じたモニタリングを行い継続的に状況を把握する。

自然再生の必要性

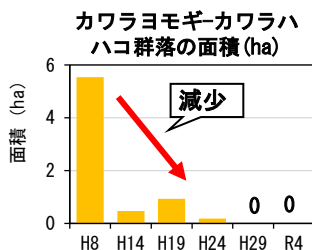
<背景>

- ・南派川は、かつては河原が広がり、河原固有植物が生育できるような環境となっていた。しかしながら樹林化等により多くの砂礫河原は失われつつある。



<課題>

- ・分派部付近には砂礫が堆積し南派川への流水の侵入頻度が低く、河道内の草地化・樹林化による河原固有植物の生育環境への影響が懸念される。

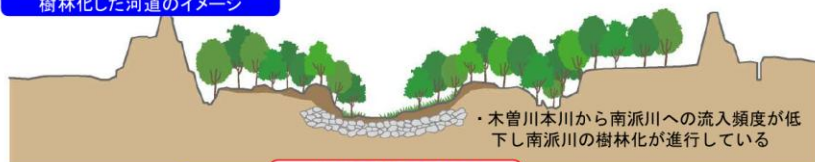


南派川におけるや植生の変遷

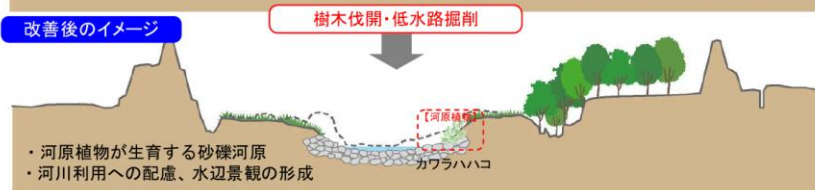
<整備目標と対策の基本方針>

- ・流水頻度の増加を図るため、木曽川本川からの流入阻害となっている分派部の礫の除去・本川への還元等を検討する。
- ・河原植物の生育環境を再生させるため、冠水頻度向上のための地盤切り下げ、樹林伐開を行う。

樹林化した河道のイメージ



改善後のイメージ



南派川の流水環境確保の整備イメージ

貴重種情報記載につき取扱注意

貴重種情報記載につき取扱注意

樹林化の防止及び流水環境の確保(南派川) 現状と課題

【モニタリング結果に基づく現時点の評価】

再生箇所	再生メニュー	現状と課題	今後の対応
南派川	樹林化の防止 及び流水環境 の確保 (樹木伐開、 河道掘削)	<ul style="list-style-type: none">・分派部付近には砂礫が堆積し南派川への流水の侵入頻度が低い状態が続いている。・3か年緊急対策事業などの樹木伐開によって草地・自然裸地が拡大され、令和4年度調査時に植物の河原固有種の生育が確認された。・令和4年の調査後に草地化および樹林化が進行し、河原植物が減少していると考えられる。	<p>【整備目標】</p> <ul style="list-style-type: none">・南派川の高水敷等の樹林化を防止し、カワラヨモギ、カワラハハコ等の河原植物の生息環境を改善するとともに、河川利用・河川景観に配慮した望ましい河川環境を再生する。 <p>【今後の方針】</p> <ul style="list-style-type: none">・流水環境改善のために、南派川低水路の掘削高及び堆積対策を検討する。・上記の検討により分派頻度の増加や堆積土砂対策が可能となった場合、低水路、高水敷の樹木伐開および河道掘削を実施する。

3. 次年度のモニタリング計画(案)

貴重種情報記載につき取扱注意

3. 次年度のモニタリング計画

ワンド等の水際湿地の再生(木曾川)

調査項目		調査箇所	調査方法	調査回数	調査の主な留意点
物理環境調査	地形調査	貴重種情報記載につき取扱注意	面的掘削ワンドの地形変化の確認	計2回	
	底質調査		コアサンプリングによる底質分析	夏季計1回	
	泥厚調査		ワンドの水深、泥厚の計測	夏季計1回	
	簡易水質調査		水質の現地測定(pH、濁度、電気伝導度、透視度、DO、水温)	春季計1回	
生物環境調査	魚類相調査		タモ網、サデ網、セルビン、定置網等による採集	夏季または施工時(冬季)計1~2回	・施工予定地における施工時の調査は、対象種を含む在来生物の移植を実施。
	二枚貝類相調査		定量採集または定性採集(タモ網と徒手による採捕)		・定量調査は面積あたり、定性調査は単位時間あたりの生息数を評価できるように調査。
	仔稚魚調査		目視による確認	春季計2回	

注1) 貴重種情報記載につき取扱注意 は、泥厚調査、魚類相調査、二枚貝類調査は行わない。

注2) 今後の検討において、調査内容は変更になる可能性がある。

3. 次年度のモニタリング計画

赤字は令和7年度調査からの変更点を示す。

ワンド等の水際湿地の再生(揖斐川)

※令和6年度から、一部のワンドで再生に関わる
 施工を実施しているため、事後モニタを追加。

調査項目		調査箇所	調査方法	調査回数	モニタリング期間	調査の主な留意点
物理環境調査	簡易水質調査	貴重種情報記載につき取扱注意	水質の現地測定(水温、pH、DO、濁度、電気伝導度、透視度の測定)	春季(5月初旬~中旬)計1回	保全対策を実施した箇所は、施工後5年間	<ul style="list-style-type: none"> 今後の対策を検討するために、ワンドにおける魚類の生息状況を把握。 魚類相調査や二枚貝調査は、調査時間と努力量を記録し、生息数を評価できるようにする。 特定外来種のコクチバスの生息状況に留意する必要がある。
	底質調査		コアサンプリングによる底質分析(強熱減量、COD、ORP ^{注)})	夏季計1回		
	泥厚調査		スタッフ(標尺)による水深と泥厚の計測			
	地形調査		施工後の地形変化(ドローン、横断測量)	非出水期1回		
生物環境調査	浮出稚魚生息調査		小型タモ網等による採捕	春季(5月初旬~中旬)計1回		
	魚類相調査		投網、タモ網、サデ網等による採捕	夏季計1回		
	環境DNA調査		メタバーコーディングによる環境DNA分析			
	二枚貝調査		タモ網と徒手による採捕(定性調査)			
移植	二枚貝移植	タモ網と徒手による採捕	盤下げ工事前	—	<ul style="list-style-type: none"> 工事予定を事前に把握する。 移植先候補を選定しておく必要がある。 	

注)ORP:酸化還元電位。底質中の酸化還元状態を表す数値で、プラスの値は酸化状態を、マイナスの値は還元状態を示す。

3. 次年度のモニタリング計画

赤字は令和7年度調査からの変更点を示す。

杭瀬川緩流域再生モニタリング調査

調査項目		調査箇所	調査方法	調査回数	モニタリング期間	調査の主な留意点
物理環境調査	水質調査	貴重種情報記載につき取扱注意	水質の現地測定(水温、pH、DO、濁度、電気伝導度、透視度、流速)	初夏 計1回		・底泥除去の実施検討に必要な物理環境データを取得することを目的とする。
	底質調査		底質外観の目視記録			
	泥厚調査		スタッフ(標尺)による泥厚の計測			
物理環境調査	水質調査	貴重種情報記載につき取扱注意	水質の現地測定(水温、pH、DO、濁度、電気伝導度、透視度、流速)	初夏・秋季 計2回	保全対策を施工した場合は、施工後5年間	・平成30年実施の調査結果との経年比較を行い、現状を把握する。
	底質調査		底質外観の目視記録			
	泥厚調査		スタッフ(標尺)による泥厚の計測			
生物環境調査	魚類調査	貴重種情報記載につき取扱注意	投網、タモ網、サデ網等による採捕			
	二枚貝調査		タモ網による採捕			

伊自良川緩流域再生調査

令和7年度で貴重種情報記載につき取扱注意 についての施工後モニタリング調査は終了とする。

3. 次年度のモニタリング計画

赤字は令和7年度調査からの変更点を示す。

木曽三川コアジサシ調査

※令和7年度と同様の内容。

調査項目		調査箇所	調査方法	調査回数	モニタリング期間	調査の主な留意点
生物環境調査	繁殖状況確認調査	揖斐川、長良川、木曽川の河道掘削の実施箇所・実施予定箇所 計7箇所	定点記録法	初夏 計2回	今後、木曽川、揖斐川でも礫河原再生が実施される予定であることから、事業実施期間中までモニタリングを継続	<ul style="list-style-type: none"> • H30～R2 営巣地（中州掘削箇所）の事業効果を確認するため、調査を継続。 • その年の営巣、産卵、出水状況等を踏まえ、必要に応じて調査回数の増減が必要。

オオサンショウウオ調査

調査項目		調査箇所	調査方法	調査回数	モニタリング期間	調査の主な留意点
生物環境調査	生息調査	貴重種情報記載につき取扱注意	現地踏査、 潜水目視(確認個体の体長、隠れ穴の規模)	夏季 (出水等で調査延期の場合は繁殖期後の10月以降) 計1回	整備前と整備完了後から5年程度	<ul style="list-style-type: none"> • 整備前の現在の状況を把握するために実施。 • 木工沈床の設置検討のため潜水目視を行うが、オオサンショウウオを確認した場合は位置や利用状況等を記録する。 • 整備後はオオサンショウウオの利用状況を把握する。
物理環境調査	水温調査		水温の現地測定(表層、底層、個体確認箇所)			
	河床状況調査 水深調査		河床状況(スケールを含む)の写真撮影 スタッフ(標尺)等による水深計測			

3. 次年度のモニタリング計画

赤字は令和7年度調査からの変更点を示す。

取扱
注意

南派川環境調査

調査項目		調査箇所	調査方法	調査回数	モニタリング 期間	調査の主な留意点
生物 環境 調査	植物 重要種 調査	貴重種情報記載につき取扱注意	踏査により目 視確認し、面 的に把握	夏～秋季 に1回	樹木伐開前	・植物重要種の生育環 境を記録

第18回木曾川上流自然再生検討会 【コクチバスの生息状況(揖斐川)】

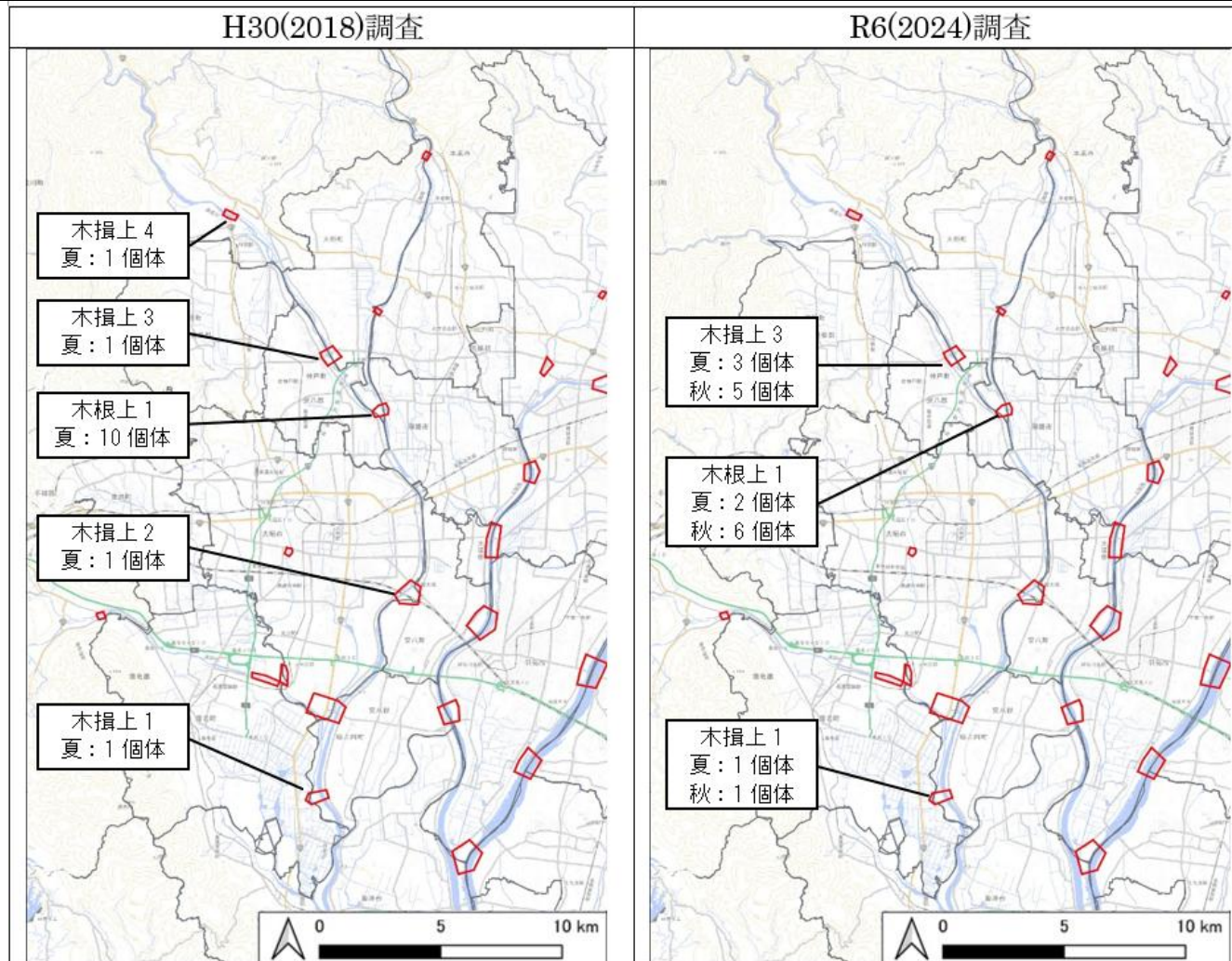
令和8年1月26日

中部地方整備局 木曾川上流河川事務所

コクチバスの生息状況(揖斐川) (1/2)

揖斐川におけるコクチバスの確認状況(河川水辺の国勢調査)

- 平成30年度の採捕調査においては5地点で14個体が、令和6年度は3地点で18個体が確認された。
- 令和6年度は3地点で稚魚(50~80mm前後)とみられる個体が確認され、調査地点付近で定着している可能性が考えられた。



※平成30年度 揖斐川水辺現地調査(魚類)業務報告書、令和5年度 木曾川長良川水辺現地調査(魚類)業務報告書より引用

貴重種情報記載につき取扱注意

第18回木曾川上流自然再生検討会 【自然再生計画の見直しについて】

令和8年1月26日

中部地方整備局 木曾川上流河川事務所

自然再生計画の見直しについて

見直しの必要性

- 現行の「木曾川上流自然再生計画」は、策定時から概ね5年間程度の整備内容およびモニタリング計画等についてとりまとめたものである(定期的な見直しが前提)。
- 個別の整備内容等については、本検討会での議論をふまえ、知見のフィードバックを行いながら順応的に進められてきたが、策定から10年以上が経過し、これまでの総括とより大局的な観点からの見直しの必要性が高まっている。

「木曾川上流自然再生検討会」の開催状況と自然再生計画書の沿革

実施回	実施時期	自然再生計画書に関する動き
第1回	平成20年12月	現行自然再生計画書の策定に向けた議論を開始
第2回	平成21年2月	
第3回	平成21年8月	
第4回	平成21年11月	現行自然再生計画書を承認
第5回	平成23年7月	
第6回	平成25年3月	現行自然再生計画書への整備方針等の一部追記(H23.8)を承認
第7回	平成26年1月	
第8回	平成27年2月	
第9回	平成28年2月	
第10回	平成29年2月	
第11回	平成30年2月	
第12回	平成31年2月	
第13回	令和2年2月	
第14回	令和3年2月	
第15回	令和4年3月	自然再生計画書見直しを進める旨を説明
第16回	令和5年10月	自然再生計画書見直しスケジュール説明
第17回	令和7年2月	

モニタリングによる知見の蓄積や
新たな課題

近年の河川をめぐる動き
・「木曾三川流域生態系ネットワーク
推進協議会」の発足(平成27年1月)
・木曾川水系河川整備計画の更新
(令和2年3月)

自然再生計画書の変更へ
(令和8~9年度を想定)